

農業委員会だより

きたみ 22

発行・編集

北見市二農業委員会だより編集委員会

（事務局 北見市大通東6丁目3番地）
TEL 0157-25-1190
FAX 0157-26-5573
E-mail nochi@city.kitami.lg.jp

主な内容

●道内視察研修報告

●担い手 ～長部 朋和さん（広郷）

●農の匠 ～村中 淳さん（端野町二区）

●新規就農

～山本 栄祐さん（留辺蘂町大富）

平成30年度 道内視察研修報告

第一農業委員会

常呂町福山地区 植松正仁

平成30年7月11日、12日の2日間、第一農業委員会(委員23名、事務局2名)の視察研修に参加させていただきました。

研修1日目は、北海道農業会議を訪問し、「農地法等の農業委員会関係法令について」と題し、農地・担い手担当部長の佐藤匡紀氏に講演をしていただきました。



【マイ自由の丘ワイナリー】

た。講演内容は、農業委員会の概要、農地制度、新たに11月から施行されるコンクリート農地などの内容でした。講師の説明は、委員1年目の私にでもわかりやすく大変勉強になりました。また、農地法を始めとする法律や制度は、随時変化していくので勉強しなければと痛感いたしました。

研修2日目の最初は、雪印メグミルク(株)札幌工場を訪れました。ここでは、バター、チーズ、アイスクリームなど、製造工程を創業当時の木製機器の実物や、ミニチュア模型を用いた説明を受けました。また、メグミルクの製品は徹底した品質管理のもとで製造されており、牛乳の製造ラインでその様子を見学することが出来ました。余談ですが、メグミルクのボトルコーヒーマグも札幌工場で製造され、ゴミの分別も簡単に出来るように工夫されており大変興味いたしました。

2日目、次の研修先は長沼町にあるマイ自由の丘ワイナリーを訪ねました。ブドウ栽培は厳しい寒さを乗り越えるため、冬の間は樹全体が雪の中に埋もれるように寝かせるのが一般的だそうですが、ここでは積雪量が少なく、雪に埋めなくても寒さに耐えられる環境に適した山ブドウ系の品種を栽培していました。また、長沼町産の希少品種を使用した個性豊かなワインを製造していました。かつて「日本一小さなワイナリー」と言われていたのが、今年から徐々に畑を拡大し様々な品種の育成に取り組んでいくとお話されました。

2日目最後の研修先は、仲野農園ファームレストランハーベストでした。こちらは長沼で五世代に渡り、りんごを作り続ける農園直営のレストランで、オーナー自ら4年の歳月をかけてログハウスを建て、1995年に誕生したそうです。レストランでは、果樹園や畑で採れた新鮮な農作物を使った料理を提



【ファームレストランハーベスト】

供していただきました。また隣ではスイーツ工房と物販スペースを併設したファームショップがあり、特に自家製のアップルパイ、リンゴジュースはとても人気で、近隣からも買いに来て、たちまち品切れになるとのことでした。最後に、この度、研修を快く受け入れてくださいました研修先の皆様にお礼を申し上げ、報告とさせていただきます。

担い手

広郷 長部 朋和さん(33)



私は、今年で就農して14年目、父から経営を引き継ぎ4年目となりました。

豆・長いも・ごぼう・越冬ねぎ・きぬさや等多品目の野菜を作付けています。以前は養豚業も営んでいましたが、飼料費が高騰したことや、近隣の農地を借りることができたこともあり、今の作付体系となりました。

就農当初は、野菜の収穫・出荷、夕方の豚舎の清掃と日々の仕事に追われるだけの毎日でした。年を重ね経験を積み、講習会や地域の先輩から知識を得ても、やはり毎日の野菜の収穫作業が忙しくて実践できなかつたり、経営の主となる畑作三品の圃場の見回りが疎かになったり、適期作業が出来ず、もどかしい思いを

することも多々ありました。しかし、昨年農業委員会から農地の話を頂き、耕作面積が増えオーバークワット気味だった野菜の作付面積を減少できたことで、今まで以上に一つ一つの作物のことを考え、手をかけることができるようになり、今更ながら農業という仕事の魅力ややりがいを実感しているところです。

本年度より、きたみらい馬鈴薯振興会の役員となり、他地区の先輩方の話を聞く機会も増え、とても勉強になる毎日です。わからないことだらけで迷惑ばかりかかっていますが、先輩方の考え方や、経験から得た知識を吸収しながら、農業者として日々成長していけたらと思っています。

近年、地域でもトラクターの大型化やGPS作業機の普及拡大など、目移りしてしまう機械が数多く導入されています。私もいずれはその向上心は持ちつつも、「堅実な経営」を心がけながら、これからも美味しい農産物を作り続ける野菜農家でありたいと思っています。

農の匠

端野町二区 村中 淳さん(62)



「自分で作ったコメを自分で販売する」こうした営農が25年程になりました。当初は、このような農家はほとんどなく、周りからの困惑したような視線をそうとう感じました。

しかしながら、待ってくれているお客様がいることで、コメの栽培に関する意識が必然的に違ってくるように思います。少しでも美味しく、そして少しでも農薬を減らすようにと心がけに変化が出てきます。

ごく初めの頃は、美味しさを求めることには無理があると決めつけ、それよりも低農薬をウリにしていたのですが、今思えばよくお客様が来てくれたものと感謝せずにはおれません。現在でも、7ミミ貯蔵・毎月モミ摺り・精米10日以内を原則に販売していますが、それよりも、いかに美味しく綺麗なコメに育て

るかを第一に考えています。最新の高性能な機械があれば、作業の効率化や身体は楽になるのですが、最も重視している美味しいコメ作りにはあまり直結しません。

私としては、美味しいコメ作りは施肥体系にあると見て、施肥量と時期を強く意識していますが、実のところ、70年も前から存在している施肥技術の受け売りで、自分の手柄ではありません。

現在の技術は、効率化・省力化が中心で、この施肥の手法に着眼し取り組んだことは誇れることと自負しておりますが、幸いにも、幾度も肥料を持って田んぼに入るなどということは、誰も関心はないようです。もっと幸いなことに温暖化の影響があると思います。

この10年近く、冷害や凶作というのが聞こえなくなりました。品種も良くなり、「ななつほし」「ゆめびりか」などメジャーな品種が当地でも育つてくれ、消費者の要望に答えられるようになりました。

途中でやめようかと思うこともありましたが、「石の上にも3年」と言われるように、信じて続けてきました。最近では、ようやく「やってくるよかったです」と確信が持てるようになりました。単に人と違うものを目指したわけではなく、自分の作るモノに責任と自信を持ちたかったのです。これが、「私の農業」です。

新規就農

留辺蘂町大富 山本 栄祐さん(30)



今回は就農して今年4年目を迎える山本栄祐さんをご紹介します。栄祐さんは、網走の出身で

地元の高校を経て医療関係の専門学校を卒業後、看護師として6年間網走で過ごされました。縁があり、同じ職場に勤めていた木村農場の長女である理恵さんと結婚することになり仕事を退職し、農業の担い手の道に進むことになりました。義父である木村さんは、自分の代で離農する予定でしたので少しずつ、縮小していこうかと考えていた頃でありましたが、農業に魅力を感じた栄祐さんを手伝うことを決心したそうです。木村さんは積極的に手作業や、トラクターの操作、機械の使い方など営農に関することを3年ぐ

らいで教えていきたいと当時お話しされていました。栄祐さんも一生懸命働きながらやってきたと思います。

現在、木村農場は甜菜4ha、豆類6.5ha、小麦4ha、芋3ha、白菜1.5haを作付けしており、畑作と野菜の農家をやっていてここ1、2年で畑の面積も増え、来年度以降もさらに増やす予定があり、当地区の農地の流動化対策にも貢献されています。

栄祐さんは、将来的には玉葱の作付けも考えており、輪作体系も守っていきながら、規模拡大したいそうです。また、青年部活動やコンバインオペレーター、地域の消防団にも加入し、多方面で活躍しており、冬にはスキー場でアルバイトをするなど地域の人たちとの繋がりを大切にしていきたいそうです。

追伸、7月上旬に新築した二世帯住宅に入居したばかりなので増々営農に力が入っていくと思いますし、地域のリーダーとして牽引していけることに期待しています。

(紹介者 茂住修一(農業委員))

無断転用は法律違反です!

農地の転用とは…?

農地を住宅や倉庫等の建物敷地、資材置場や作業場等の敷地、ソーラー発電設備の設置、植林等の「**農地以外の用地に転換すること**」です。また、一時的に資材置場や砂利採取場、残土置場等に利用する場合も転用になります。

なお、農地であるかどうかは、『現況』によって判定されますので、**農業委員会**で必ず確認してください。

許可を受けるには…?

該当農地の場所等によって許可の基準が異なり、許可がおきるまで**約3ヶ月前後**かかります。また、4haを超える転用や他の法令等の許可が必要な場合は、さらに時間を要します。そのため時間にゆとりを持って事業を計画し、事前に**農業委員会**に相談してください。

〈他の法令等の許認可の例〉

市町村が定める農業振興地域整備計画において農用地区域とされた区域内の農地を転用する場合、農用地区域からの除外や用途変更の手続きが必要となります。

農作業事故を防止しよう。

「ストップ農作業事故!」

秋の農作業が本格化する季節です。収穫作業時の事故や公道での一般車両と農業機械との接触事故など、十分ご注意ください。安全な農作業で事故を防ぎましょう。

編集後記

大雨が降ったり、ストーブをたくほどの低温になったりと不順な天気で、管理作業に苦労した事と思います。

これから収穫作業の本番を迎えますが、健康管理に気を付けて農作業事故等に十分注意をし、安全に心がけ、よい出来秋を迎えられる事をお祈りして編集後記とします。

(竹下編集委員 記)



表紙

富里地区放牧